

科目名	福祉社会開発研究方法論特講	2 単位
担当者	末盛 慶	
テーマ	研究を行う上で必要となる調査方法について理解を深める。	
科目のねらい	<p><キーワード> 科学 研究方法 質的方法 量的方法 混合研究法</p> <p><内容の要約></p> <p>本講義では、研究を行う上で必要となる研究方法を学ぶ。具体的には、質的方法、量的方法、混合研究法を扱う。質的方法に関しては、質的方法の特徴、質的研究における研究課題の定め方、データ収集の仕方、質的データの分析方法等について解説する。量的方法に関しては、仮説の作成、質問紙の作り方、対象者の抽出方法、調査の実施方法、データの作成と多変量解析について学びます。混合研究法に関しては、混合研究法の定義、種類、研究の進め方、注意点等について説明を行います。</p> <p><学習目標></p> <p>科学の歴史と現状を理解する。質的方法を理解する。量的方法を理解する。混合研究法を理解する。</p>	
授業の進め方	<p>本科目はオンデマンド授業になります。ディスカッションはありません。</p> <p>「nfu.jp」→「スタディ」から受講して下さい。</p> <p>各回のオンデマンド授業を視聴し、質問があれば掲示板に書き込んでください。進行の目安は、各回2週間程度とします。</p> <p>*動画視聴のみのオンデマンド科目のため、各回の講義日程はあくまでも目安です</p> <p>第1回 5月 5日～ 科学とは何か：その歴史と現在</p> <p>第2回 5月 19日～ 質的方法の概要</p> <p>第3回 6月 2日～ 質的データの取り方</p> <p>第4回 6月 16日～ 質的データの分析Ⅰ：グラウンデッド・セオリー・アプローチ</p> <p>第5回 6月 30日～ 質的データの分析Ⅱ：修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ</p> <p>第6回 7月 14日～ 質的データの分析Ⅲ：参与観察法・エスノグラフィー</p> <p>第7回 7月 28日～ 質的データ分析Ⅳ：ケーススタディ</p> <p>第8回 8月 25日～ 量的方法の概要：仮説の設定</p> <p>第9回 9月 8日～ 質問紙の作成と配布の方法</p> <p>第10回 9月 22日～ 質問紙の配布とデータ入力</p> <p>第11回 10月 6日～ 関連を検討する：単純集計とクロス集計</p> <p>第12回 10月 20日～ 統計的検定</p> <p>第13回 11月 3日～ 多変量解析Ⅰ：検定・分散分析・相関分析・回帰分析</p> <p>第14回 11月 17日～ 多変量解析Ⅱ：因子分析・信頼性分析</p> <p>第15回 12月 1日～ 混合研究法</p> <p>課題レポート提出期限：2026年1月23日〔金〕</p> <p>*提出方法やレポートの詳細については、nfu.jpのスタディ上でご確認ください</p>	
事前学習の内容・学習上の注意	<p>質的研究に関しては、ウヴェ・フリック(2011)『質的研究入門(新版)』春秋社を、量的研究に関しては、サラ・ボスラフ(2015)『統計クイックリファレンス(第2版)』オーム社を、混合研究法に関しては、ジョン・W. クレスウェル(2017)『早わかり混合研究法』ナカニシヤ出版を読んだ上で、本講義を受講して下さい。各回の講義で紹介される参考図書も積極的に読みください。</p>	
本科目の関連科目	—	
テキスト	—	
参考文献	<p>野村康(2017)『社会科学の考え方』名古屋大学出版会</p> <p>伊丹敬之(2001)『創造的論文の書き方』有斐閣</p> <p>パンチ,K.F.(2005)『社会調査入門：量的調査と質的調査の活用』春秋社</p>	
レポート課題 単位認定方法 と基準	レポート課題は各自の調査と分析の計画です。その内容をみて、評価を行います。	

科目名	福祉社会開発政策・実践論特講	2 単位														
担当者	申請に基づく単位認定科目（各専攻において単位認定判定を行う）															
テーマ	福祉社会開発に向けた学際的アプローチを学ぶ															
科目のねらい	<p><キーワード> 社会的課題、ポジティブ・ウェルフェア、社会保障、社会政策、開発、自立と依存</p> <p><内容の要約> 複雑・多様化する今日の社会において、単独の学問では解決し得ない社会的課題が生まれている。本科目では、社会的課題の解決に向けた学際的なアプローチを学ぶ。それを踏まえて、自らが専攻する学問の固有性を理解するとともに、他の領域との融合による研究のあり方を考える。</p> <p><学習目標> 福祉社会開発の視点、価値を自らの研究に活かすことができる。 福祉社会開発研究における多様なアプローチ方法を説明することができる。 社会的課題の解決に向けた研究をデザインすることができる。</p>															
授業の進め方	<table border="1"> <thead> <tr> <th>日程・講師</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>【第1回】 6月15日(日) 13:15~16:30 二木立先生</td> <td>【講義】全体テーマ：2025年の医療制度改革の課題と論点 第1部：「かかりつけ医機能が発揮される制度整備」の評価とそれへの対応 第2部：私が高額療養費制度の患者自己負担増に反対する理由</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 7月6日(日) 13:15~16:30 白澤政和先生</td> <td>【講義】地域共生社会確立に向けたソーシャルワークの課題 ～市町村は包括支援体制をいかにつくるのか～ 【演習】地域共生社会づくりでの8050世帯へのケアマネジメント ～ストレングスを活用したケアプラン作成～</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 9月28日(日) 13:15~16:30 近藤克則先生</td> <td>【講義】健康格差の縮小は可能か？ ～健康格差（社会経済的要因による集団・地域間の健康状態の差）の縮小に向けて取り組んできた研究の成果を紹介 【演習】健康格差の縮小のためになすべきことは何か？</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 10月19日(日) 13:15~16:30 大橋謙策先生</td> <td>【講義・演習】地域共生社会政策の具現化における重層的支援体制とコミュニティソーシャルワーク</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 11月30日(日) 13:15~16:30 宮本太郎先生</td> <td>【講義・演習】地域共生への政策課題と孤独・孤立対策</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 12月14日(日) 13:15~16:30 山縣文治先生</td> <td>【講義・演習】就学前保育・教育制度の展開と今後</td> </tr> </tbody> </table> <p>本科目は単位認定申請科目です。 大学院特別公開セミナー※を受講することにより、単位認定申請が可能となります。 ※名古屋キャンパスにて、ハイブリッド形式で開講されます。</p>		日程・講師	内容	【第1回】 6月15日(日) 13:15~16:30 二木立先生	【講義】全体テーマ：2025年の医療制度改革の課題と論点 第1部：「かかりつけ医機能が発揮される制度整備」の評価とそれへの対応 第2部：私が高額療養費制度の患者自己負担増に反対する理由	【第2回】 7月6日(日) 13:15~16:30 白澤政和先生	【講義】地域共生社会確立に向けたソーシャルワークの課題 ～市町村は包括支援体制をいかにつくるのか～ 【演習】地域共生社会づくりでの8050世帯へのケアマネジメント ～ストレングスを活用したケアプラン作成～	【第3回】 9月28日(日) 13:15~16:30 近藤克則先生	【講義】健康格差の縮小は可能か？ ～健康格差（社会経済的要因による集団・地域間の健康状態の差）の縮小に向けて取り組んできた研究の成果を紹介 【演習】健康格差の縮小のためになすべきことは何か？	【第4回】 10月19日(日) 13:15~16:30 大橋謙策先生	【講義・演習】地域共生社会政策の具現化における重層的支援体制とコミュニティソーシャルワーク	【第5回】 11月30日(日) 13:15~16:30 宮本太郎先生	【講義・演習】地域共生への政策課題と孤独・孤立対策	【第6回】 12月14日(日) 13:15~16:30 山縣文治先生	【講義・演習】就学前保育・教育制度の展開と今後
日程・講師	内容															
【第1回】 6月15日(日) 13:15~16:30 二木立先生	【講義】全体テーマ：2025年の医療制度改革の課題と論点 第1部：「かかりつけ医機能が発揮される制度整備」の評価とそれへの対応 第2部：私が高額療養費制度の患者自己負担増に反対する理由															
【第2回】 7月6日(日) 13:15~16:30 白澤政和先生	【講義】地域共生社会確立に向けたソーシャルワークの課題 ～市町村は包括支援体制をいかにつくるのか～ 【演習】地域共生社会づくりでの8050世帯へのケアマネジメント ～ストレングスを活用したケアプラン作成～															
【第3回】 9月28日(日) 13:15~16:30 近藤克則先生	【講義】健康格差の縮小は可能か？ ～健康格差（社会経済的要因による集団・地域間の健康状態の差）の縮小に向けて取り組んできた研究の成果を紹介 【演習】健康格差の縮小のためになすべきことは何か？															
【第4回】 10月19日(日) 13:15~16:30 大橋謙策先生	【講義・演習】地域共生社会政策の具現化における重層的支援体制とコミュニティソーシャルワーク															
【第5回】 11月30日(日) 13:15~16:30 宮本太郎先生	【講義・演習】地域共生への政策課題と孤独・孤立対策															
【第6回】 12月14日(日) 13:15~16:30 山縣文治先生	【講義・演習】就学前保育・教育制度の展開と今後															
単位認定申請手順	<p>1. 単位認定申請の手順</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 大学院特別公開セミナーの、参加申込の手続きをおこなう。 申込先...https://www.n-fukushi.ac.jp/gs/2025/kenkyu/ ※本科目は、大学院特別公開セミナーへの参加申込をもって履修登録とします。 nfu.jp上で履修登録をおこなう必要はありません。 2) 全6講中5講義以上を受講し、受講後「受講証明書」を受け取る。 3) レポート課題の作成。 ※下記「成績評価方法と基準」欄に示すテーマについてレポートを作成。 4) 必要書類（受講証明書・レポート課題）を提出し、単位認定申請をおこなう。 ※単位認定申請の結果は後期成績発表時に通知します。 <p>2. 単位認定の申請期限および申請方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 提出書類：受講証明書 + レポート課題 2) 提出期限：2025年12月15日(月)～2026年1月9日(金) 3) 提出方法：窓口提出または nfu.jp「スタディ」内の所定BOXへの提出 															
成績評価方法と基準	<p>大学院特別公開セミナーの受講証明書を提出し、提出したレポートの「合格」判定により単位認定されます。レポートのテーマは、「セミナーを受講し、新たに学んだ点、自身の研究・実践に活かせると思った点」などについて、A4版(40字×40行程度)3頁以内で作成してください。</p>															

< 博士課程の研究テーマの内容 >

※開講および担当教員は 2024 年度の実績であり、今後変更となる場合があります。

国際社会開発特別研究 テーマ	各担当が行う研究テーマの概要
「開発と文化」	<p>小國 和子 教授</p> <p>地域社会が歴史的に蓄積してきた文化的な価値基盤をもとに、現代の開発実践を読み解き、院生各自が対象とする社会におけるローカルな開発概念とともに検討します。開発における地域固有性の配慮が取沙汰される中で、文化人類学を学問的な背景に、アクター・アプローチに基づくプロセス分析など、開発の動態を叙述的に考察していく視点と姿勢について指導を行います。フィールドワークに代表される調査技法にはじまり、語りや観察記録といった質的情報をデータとして反映させていく方法を指導します。</p>
「障害と開発」	<p>久野 研二 教授</p> <p>障害を一つの切り口とし、多様性と包摂の視点から開発を再考します。特に、多様性を包摂した開発の分析枠組みや実践についての理解を深めます（例：ケイパビリティ・アプローチ、持続的生計、社会関係資本など）。その上で、「障害と開発」という視点から開発政策といったマクロの取り組みから地域社会での具体的な実践といったミクロの取り組みまでを見据えた研究指導を行います。</p> <p>研究方法論については、いわゆる質的研究といわれる社会構成（構築）主義に基づき、具体的手法としては参与観察や事例分析について研究指導を行います。</p>
「情報と開発」	<p>佐藤 慎一 教授</p> <p>開発における情報の及ぼす影響の分析、情報技術の効果的な活用方法の検討・実施等、学際分野である教育工学の知見を踏まえて考えていきます。実験室的な統制された環境下ではなく、複雑な要因が絡み合う現場から合理的な知見を導き出すため、質的・量的分析の双方を取り入れる等、特定の方法論に依存せず、形成的・複合的なアプローチで検討を進めていきます。現場に質する研究成果の獲得に向け、複雑な要因が相互に作用する現場・実践に向き合い、多様な分野の先行研究を踏まえ、知見をまとめていくよう指導を行います。</p>
「ガバナンスと開発」	<p>砂原 美佳 准教授</p> <p>グローバル化の進展に伴いより複雑さを増している公共的課題とそれへの対応について、公共政策論、行政学において議論されている政策実施・評価論の知見をベースに、行政や法といった制度の側面および制度の背景にある文化的・歴史的側面など多様な視点から検討します。ガバナンスは船の「舵取り」に例えられます。明確な目的地、そこに予定通りにたどり着くための舵取りの機能が想定されています。</p>

	<p>国際協力は、複数の政府が関わるという意味で特殊です。また担い手は政府だけでなく、さまざまな主体が関わります。目標の設定に対する工夫（民主的統治、法の支配という概念の検討）が求められるだけでなく、活動を通じて目的地が変化することも多々あり、こうした中で国際開発の有効性はどのように検討しうるのかについて考えます。</p>
<p>「住民主体の開発」</p>	<p>野田 直人 教授</p> <p>持続的な地域の開発・発展のために必要不可欠な地域住民の主体性発露に関し、あるいはそれを可能にする政策や援助アプローチに関し、具体的な事例の分析を通して多面的に考察します。</p> <p>研究内容は、地域住民の主体性発露を量的・質的両面から捉えることを前提とし、マクロレベルの政策等を検討する場合においても、ミクロレベルでの成果への言及が必須です。また研究を進める上で政治・経済・社会など学際的な視点に加え、資源論・環境論など、各研究対象に応じた特定分野におけるレビューが求められます。</p> <p>研究方法は事例研究に基づくものとしますが、量的・質的な変化を検証できることが必須です。</p>
<p>「地域マネジメント」</p>	<p>吉村 輝彦 教授</p> <p>地域の人々の生活や生計を確保し、豊かな暮らしを実現していくために、地域づくりをどのように進めていくのかを中心に、マクロ、メゾ、ミクロのそれぞれを射程に入れて、研究の指導を行います。特に、関係主体の相互作用や関係変容を促す「場」や「縁（つながり／関係）」のデザインやマネジメントを通じたコミュニティづくり、公共的空間を活かしたプレイスメイキングやエリアマネジメント等を通じた創発的まちづくり、場（場所／居場所／舞台／機会）づくりから始まる地域づくり、そのためのビジョンやプロセス、そして、マネジメントのあり方、参加型（協働型）ガバナンスや個別の支援的政策環境のあり方、これらの仕組みを機能させるための社会関係資本や能力形成の向上策のあり方、「地域づくり」と「地域福祉」の架橋、融合する取り組み、そして、ファシリテーターの関わりのあり方等を、現場（フィールド）レベルでの実践を大事にししながら、個別具体的に検討していきます。</p>